

## 高千穂大生との対話集会

30日、高千穂大学(大宮2-19-1)では、杉並区長と経営学部の学生による対話集会「すぎなミーティング」が開催されました。この集会は、区が若者世代の声を区政運営に活かすために企画したもので、30名の学生からは自転車レンタルの導入や起業に対する支援の強化などの意見が出されました。

今年度は、公職選挙法が改正され選挙年齢が引き下げられました。これも若者の声を様々な施策につなげることが目的です。今後の社会を生きる若者世代が自らの考えで、自らの未来を決めることは当然のことです。

区民から区政に寄せられる意見は、防災対策や福祉施策、教育に関すること、施設の使い勝手などあらゆる分野に渡ります。また、区長は地域団体が主催する会合やイベントに顔を出し、その際に様々な意見を伺っています。しかし、こうした場面だけでは、若者世代を含む区民からの幅広い意見が耳に入らない悩みを持っています。さらに、区に寄せられる意見は、その方にとって不十分だと感じる内容が多く、個別の要望にとどまっているものが約7割を占めます。

そこで、区になかなか届きづらい区民の意見はどういうものなのか、それを知るために、今年度から始めたのが、「すぎなミーティング」です。中でも日頃、意見を伺う機会が少ない若者世代と直接、膝を突合せ意見交換をしようとするものです。



「第1回すぎなミーティング」は、高千穂大学経営学部の学生30名と行いました。学生の皆さんは、区内のキャンパスで、起業や事業継承について学んでいます。意見交換では、区長からは、結婚について、どのように考えているかなどを質問。学生からは、他の自治体でも行われている自転車のシェア事業を杉並でも実施してもらいたいといった意見が出されたほか、若者が起業を行うことへの支援のしくみを作ってほしいなどの意見が出されました。

およそ1時間半の対話集会は、終始和やかな雰囲気の中で進行しました。こうした若者を中心とした対話集会は、9月以降高校生や無作為抽出の区民を対象とするものの開催を予定しています。

### 【問い合わせ先】

総務部区政相談課 3312-2111 内線1121